豆州
熱海

温泉湯治所 日々新湯

但シ男女別湯あり外ニ丁子風呂ハ女中のミニて常の也ニ同し

○一周間　廿錢　○一度入　壹錢　○女中丁子風呂　八厘
○一日入　三錢　○のミも　五厘

熱海温泉ハ入浴僅ニ數日ニして其病を治せる者少からず然るに明治七年夏日此泉の有功に付分析するに至て中和塩泉なるを徴せり中島先生の温泉考ニ委しく記せバ聊功能を左ニ挙て諸君の入浴あらんを冀ふ

經驗主治

○僂麻質斯○風寒兩濕より發する症○筋骨の痛○疝氣○寸白○瘰癧○麻痺病○半身不遂○四十手五十手のるゐ○皮膚の衰より發る病○咳嗽痰留飲逆上目暈氣鬱盗汗兩便秘結の症○黴毒○骨痛○楊梅瘡○小瘡とび○婦人ハ子宮病○子を生ざる者も浴して妊娠まじ○腰氣○長血白血○經水不順○血のみち一切を治す

右の諸症ニ罹る者此温泉ニ浴して其効を奏し第一氣血を順らし飲食を消化し血液循環して無病壮健なるゝなるの名湯なり

呑湯も亦功能多し

浴法

一日ニ二度又三度を常法とし尤甚だ熱きハ害あり微温なる湯を佳とす俗て後乾きたる布帛を以て拭ひ早く衣服を着し風ニ當るを忌むべし

伊豆國加茂郡
熱海驛
温泉元方
今井新左衛門
鈴木半次郎
藤屋喜右衛門

右ハ是迄江戸橋錦町ニ於て一ト銘温泉営業仕居候處此度改所致ニ付左之地ニ引移り良法を以て益精仕候間不相変御入湯之程偏ニ奉希上候

六月一日開業
日本橋南箔屋町十三番地
熱海庵　西村忠輔

□あたみ元湯　一樽ニ付定價金五十銭　賣捌所
□熱海温泉考　小本一冊定價五戔　同分拆表一枚摺定價五戔

上州磯部鑛泉場一覧之圖

益池龍之助著

明治十九年九月出版　著者藏版

定價金三銭